

旭化成が4年連続11度目優勝

女子は三井住友海上が2年ぶり3度目のV

厚生労働大臣杯争奪第55回全日本実業柔道団体対抗大会は、5月28日(土)、29日(日)の両日、来年の国民体育大会「のじぎく国体」の柔道競技会場となる姫路市手柄山中央公園内、兵庫県立武道館において開催された。

参加チームは3チーム欠場により、106チーム。(男子90チーム、女子16チーム)。アテネオリンピックメダリストや今年の世界選手権カイト大会代表選手も出場し、4試合場の会場の観客席、ロビーは溢れんばかりの観客で賑わった。姫路市では、1964年(昭和39年)に第9回大会が開催さ

れて以来、実に41年ぶり2度目の開催となった。

開会式では年間最優秀選手の表彰があった。永野重雄杯の栄誉はアテネオリンピック100kg超級優勝、平成16年度全日本選手権優勝の鈴木桂治5段(平成管財)に輝き、宮崎輝杯はアテネオリンピック78kg超級優勝、平成16年度全日本女子柔道選手権優勝の塚田真希4段(総合警備保障)に授与された。又、特別功労賞(20回出場)、功労賞(15回出場)の表彰も行われた。(別記参照)

初日は、男子第三部で松前柔道クラブ(B)が関西医療学園附属接骨院(B)を4-1で退け、念願の初優勝を果たした。女子第一部は5チームでリーグ戦を戦い、

アテネオリンピックメダリスト2名を擁する三井住友海上が4戦4勝で2年ぶりに3度目の優勝旗を手にした。

最終日、男子第一部は旭化成が、地元大応援団の声援を受けて勝ち上がった新日鐵を4-0で圧倒し、11度目の優勝、4連覇の偉業を達成した。

男子第二部は旭化成が了徳寺学園を2-0で下し、3度目の優勝を飾り、来年は第一部に2チーム出場権を獲得。

女子第二部はヤックスケアサービスが了徳寺学園を2-1で破り、初出場初優勝を果たした。

来年度の大会は6月3日(土)、4日(日)、札幌市内北海道立体育センターに於いて举行される。1985年(昭和60年)に札幌中島スポーツセンターで举行された第35回大会から21年ぶり2度目の札幌市での開催となる。



開会式であいさつする阿南惟正 副会長



開会式で歓迎のあいさつをする井戸敏三 兵庫県知事



選手宣誓をする繁昌久哲選手(旭化成)



開 会 式

男子第一部

旭化成、4連覇達成。

大健闘の新日鐵、決勝戦で涙を飲む。

旭化成が準決勝戦、了徳寺学園を高井、高橋の活躍で退け決勝戦進出。対するは、地元の大応援を受けて決勝戦まで勝ち上がった新日鐵。

オールドファンにはお馴染みの伝統の一戦となった。

先鋒戦は今春同じ学窓を巣立った両者の対戦。カイロ世界選手権代表の高井は中量の吉永を試合開始から圧倒し、51秒場外付近まで押し込み大外刈。豪快に刈り上げ



高井の豪快な大外刈でまず1勝

ると吉永は背中から畳に沈む。旭化成、まず一本勝で先制。

次鋒、村元対落合戦。村元が落合に圧迫を加え、落合が場外付近に退く展開。されど決め技が出ず、共に指導2まで受ける。そのまま引分になると思われた残り4秒、場外際に居着く落合に5秒ルールによる指導3が与えられる。

中堅戦。両高橋の対戦。ケンカ組手で組合わない両者に1分30秒過ぎまでに指導2。新日鐵高橋は旭化成高橋の圧力を巧みに捌いていたが、終盤場外注意で指導3を喫し、そのままブザー。旭化成、中堅戦で優勝を決定。

副将戦は、一矢を報いたい永井であったが、巨漢松山を攻めあぐね両者指導2まで受ける。終盤に入り、今度は松山がパワーで永井を振り回すが、ポイントを奪えず引分ける。

大将戦。体格で勝る森田が斉藤を攻め、斉藤は受けに回る展開となるも、中盤に入り斉藤が森田の一瞬の隙を衝き、低い姿勢からの払腰で技ありを奪う。その後は攻守とを代え斉藤が攻勢に転じる。斉藤が仕掛けた技がもつれて寝技に移行した刹那、森田が森田の腕を十字固に極めると、森田たまらず斉藤の体を叩き、一本。

旭化成は、新人高井とベテラン高橋、村元の活躍で新日鐵を打ち破り、圧倒的な点差で4連覇達成。新日鐵は、次鋒、中堅戦共、終盤まで引分ペースを進めていたが、最後に惜しくも共に指導3を喫し、地元優勝の悲願がならず。

■優勝監督コメント

旭化成 中村佳央

団体戦は、誰か一人でも気を抜いたら負ける怖さがあるだけに気を引き締めて臨ませた。準決勝の了徳寺戦はしぶとい選手が多く簡単には勝たせてくれない。

決勝戦は高井、村元、高橋の前3人で優勝を決めるつもりだった。高井は試合と合宿が続ぎ、手首、腰を故障していたが良く調整し頑張った。もちろん、来年も連覇を狙うが、二部から昇格するBチームと決勝で対戦することが目標。そんなに甘くはないでしょうが。



第一部優勝の旭化成チーム

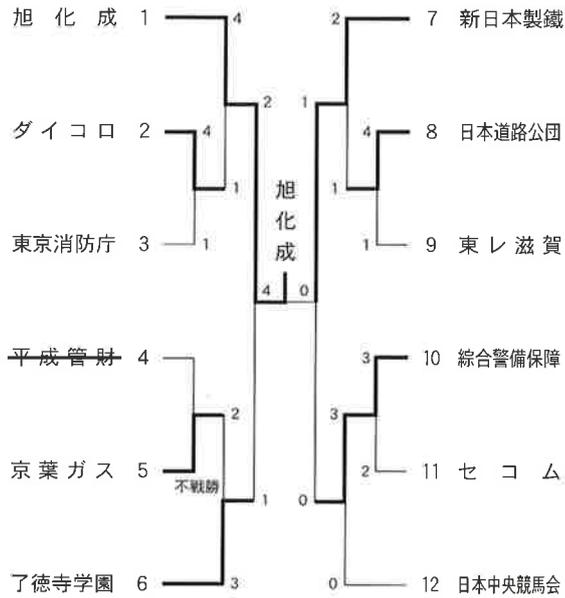
アテネオリンピックメダリストとの記念撮影会 開催される

大会2日目、県立武道館1階ロビーにおいて、アテネオリンピックメダリストとの記念撮影会が開催された。参加選手は内柴正人選手（旭化成）、泉浩選手（旭化成）、塚田真希選手（総合警備保障）、谷本歩実選手（コマツ）。開始11時の定刻前より長蛇の列が出来、ロビーは熱気に包まれた。終了までの1時間、列は切れることなく続き、子供達は満面の笑みで写真に納まっていた。



男子第一部成績表

優勝 旭化成
 準優勝 新日本製鐵
 第3位 了徳寺学園
 第3位 綜合警備保障



東京消防庁、平成管財、東レ滋賀、セコムの4チームは次年度第二部に降格する

平成16年度 年間最優秀選手

[永野重雄杯] 鈴木桂治 (平成管財)
 [宮崎輝杯] 塚田真希 (綜合警備保障)

特別功勞賞 (20回出場)

檀上治亨 (新日本製鐵)

功勞賞 (15回出場)

有野伸也 (帝人)

【準決勝】

第1試合

旭化成 2-1 了徳寺学園
 大鋸新 5段 —×— 飛塚雅俊 3段
 村元辰寛 4段 —×— 矢寄雄大 3段
 ○高井洋平 3段 優勢勝ち 中野竜 3段
 松山毅 4段 優勢勝ち 坂本周作 3段○
 ○高橋宏明 4段 大外刈 廣川充志 3段

第2試合

新日本製鐵 1-0 綜合警備保障
 ○高橋徳三 4段 優勢勝ち 今井敏博 3段
 吉永慎也 4段 —×— 工藤龍輝 4段
 永井亮平 4段 —×— 生田秀和 5段
 落合幸治 3段 —×— 近野貞治 4段
 森田祥一 3段 —×— 小野俊教 3段

【決勝】

旭化成 4-0 新日本製鐵
 ○高井洋平 3段 大外刈 吉永慎也 4段
 ○村元辰寛 4段 優勢勝ち 落合幸治 3段
 ○高橋宏明 4段 優勢勝ち 高橋徳三 4段
 松山毅 4段 —×— 永井亮平 4段
 ○斉藤制剛 4段 腕拉ぎ逆十字 森田祥一 3段

優秀選手

〔男子〕

第一部

高井洋平 (旭化成)

生田秀和 (綜合警備保障)

村元辰寛 (〃)

矢寄雄大 (了徳寺学園)

永井亮平 (新日本製鐵)

桑原和寿 (九州電力)

第二部

塘内将彦 (旭化成)

飯銅崇晋 (セコム)

第三部

河野誠 (〃)

武内琢磨 (はりば)

第二部

松岡美貴 (了徳寺学園)

渡邊一貴 (自衛隊体育学校)

第三部

大平紘嗣 (松前柔道クラブB)

七條芳美 (了徳寺学園)

第二部

谷口徹 (〃)

吉成麗子 (コマツ)

第一部

上野雅恵 (三井住友海上火災保険)

清水伊穂理 (〃)

〔女子〕

第二部

川口有紀 (ヤックスケアサービス)

上野順恵 (〃)

第一部

清水伊穂理 (〃)

〃

男子第二部

旭化成、第一部と併せ二部門優勝の快挙 了徳寺学園も来年は第一部に2チーム出場

第二部、23チームによる戦いを制しての決勝戦進出は、準決勝戦で九州電力に逆転勝ちした旭化成と、対するは緒戦から危なげなく勝ち進んだ了徳寺学園の両雄。

先鋒、松岡対角地戦。前半は激しい組み手争い。中盤両者指導1の後、角地が戦いの主導権を握るが、決め技を欠き引分ける。次鋒戦。鈴木、家泉共に消極的で単調な戦い。2分19秒に両者指導2を受け、そのまま引分。

中堅戦、荒平対繁昌の中量級同士の戦い。荒平は抱え込んでの小外刈、小内刈を繰り返すが、巧者繁昌、難なくかわして引分。勝負は後半に持込まれる。

副将戦は、組み際に内股を仕掛ける軽部に、塘内は守勢に回り1分5秒指導1を受ける。その後塘内が攻勢に転じ、2分15秒、軽部の一瞬の隙を捉え内股で有効を奪い、旭化成待望の1勝を上げる。

大将戦は、今大会すべて一本勝、絶好調の河野が開始51秒雑賀から大内刈で有効を奪い、そのまま袈裟固に押え込み一本。旭化成は3度目の第二部優勝。両チーム共、第一部で来年の2チーム出場権を勝ち取る。

優勝監督コメント

旭化成 中村佳央

優勝は狙っていたので嬉しい。チームワークで良く頑張った。アテネオリンピック代表の塘内はさすが実力者。河野は苦手な組み手を克服し、大活躍してくれた。今大会の収穫でもある。



第二部優勝の旭化成チーム

【決勝】

了徳寺学園	0 - 2	旭化成
松岡美貴 3段	—×—	角地信太郎 4段
鈴木貴士 3段	—×—	家泉崇 3段
荒平佳也 2段	—×—	繁昌久哲 5段
軽部友和 3段	優勢勝ち	塘内将彦 3段◎
雑賀俊行 3段	袈裟固め	河野誠 4段○

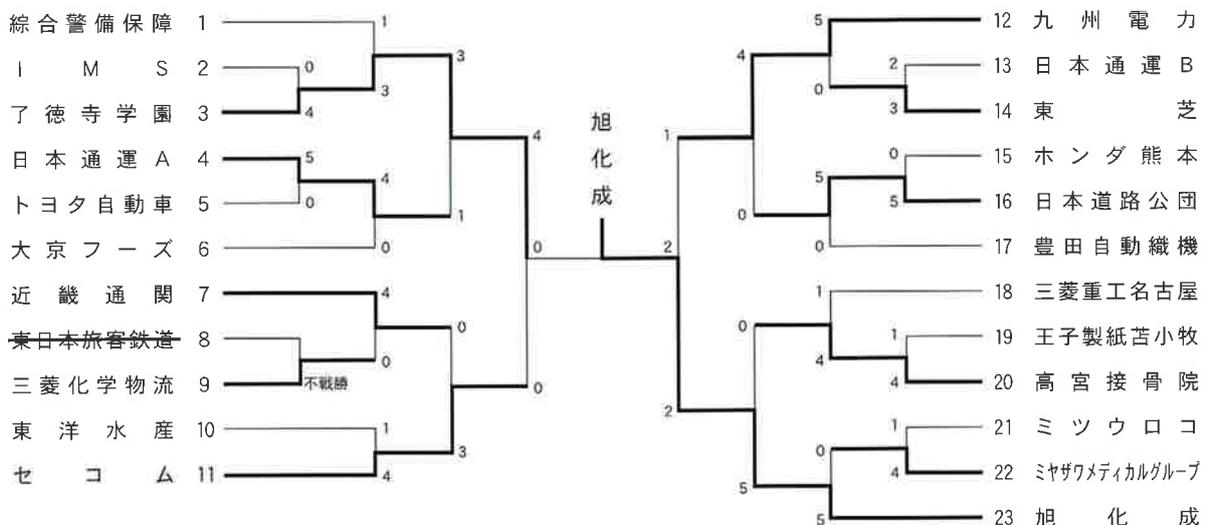
男子第二部成績表

優勝	旭化成	第3位	セコム
準優勝	了徳寺学園	第3位	九州電力

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



塘内、内股で有効を奪う



男子 第三部

松前柔道クラブ(B)、昨年、一昨年の女子第二部 優勝に続き男子第三部でうれしい初優勝

58チームでの優勝争い。内、地元特別参加は3チーム(警察チームは不出場)。決勝戦は関西医療学園附属接骨院(B)対松前柔道クラブ(B)の対戦。共に20歳代前半中心の若いチーム。特に松前柔道クラブは、今年東海大卒業の新人ばかりを並べるチーム編成。

先鋒、大平は開始早々すくい投げで有効を奪うと、3分30秒力強い一本背負で一本勝。松前柔道クラブ先制点を上げる。

次鋒戦。ケンカ組み手の似たタイプの対戦は、水落が1分30秒肩車で有効。終了間際には内股で有効を奪い、終始優勢のまま時間。松前柔道クラブ連取。

中堅の大内は開始15秒内股から小外掛に切り返し、技ありを奪う。その後も体力差を活かし谷口の動きを封じる。更には、1分20秒に小外掛でポイントを重ね、関西医療学園、一矢を報いる。

副将戦。白川は劣勢を挽回せんと猛然と攻めるが、1分20秒払腰を裏投で返され技ありを喫す。その後も木村がうまくかわして松前柔道クラブ、リードを保つ。

山川対浅野の大将戦。浅野が帯を持っての払腰で効果を取。山川、小外掛で効果を奪い返すも、終了間際浅野が再び払腰で効果。関西医療学園、万事休す。松前柔道クラブ念願の初優勝。

優勝監督コメント

松前柔道クラブ 北田晃三

優勝を狙っていた。ポイントゲッターの谷口が取れなかった分を他の者が取り返してカバーし合い、チームワークの勝利。この大会は1日5試合、段々試合と試合の間が短くなるので、若さと元気がないときつい。来年は二部に昇格するので、また上位を狙えるチームにしたい。



大平の一本背負で先制



第三部優勝の松前柔道クラブBチーム

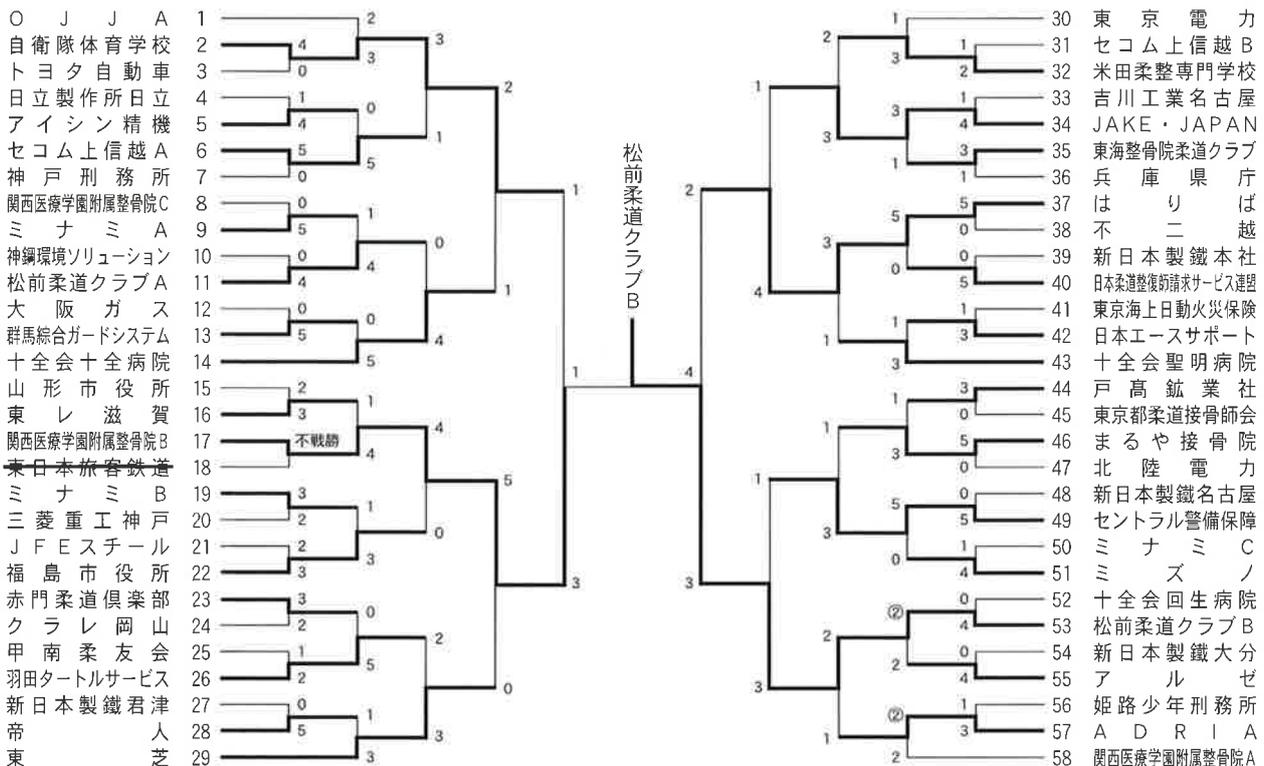
【決 勝】

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| 関西医療学園附属整骨院B | 1 - 4 | 松前柔道クラブB |
| 安井正則 3段 | 一本背負 | 大平 紘 嗣 3段◎ |
| 岩本隆志 2段 | 内 股 | 水落 健太 3段◎ |
| ◎大 西 洋 介 3段 | 小 外 刈 | 谷 口 徹 3段 |
| 白 川 達 也 2段 | 裏 投 げ | 木 村 理 人 3段◎ |
| 山 川 大 輔 3段 | 大 外 刈 | 浅 野 雄 太 3段◎ |

男子第三部成績表

優 勝 松前柔道クラブB 第3位 自衛隊体育学校
準優勝 関西医療学園附属整骨院B 第3位 は り ば

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



女子第一部

三井住友海上、4戦全勝で 2年ぶり3度目の優勝を飾る

リーグ戦で行われた女子第一部は、三井住友海上がアテネオリンピックメダリストと新鋭清水の活躍で、コマツ、ミキハウス等の強豪を下し、3度目の優勝を全勝で飾った。

ミキハウス 0-3 三井住友海上
先鋒北田対岩藤。北田の背負投を岩藤が潰し、寝技に引き込む。両者、この攻防に終始し引分。次鋒横澤は、アテネオリンピック準決勝戦を彷彿させる袖釣込腰で藤原を畳に沈め、鮮やかな一本勝。中堅、ケン力組み手を制した上野(順)が1分29秒体落で有効を奪うと、そのまま袈裟固に固め一本。副将戦、前田对上野(雅)は、前田が1階級上の上野をよく攻めるが引分ける。大将戦、薪谷は新鋭清水の繰り出す足技にリズムを乱される。あせった薪谷が残り23秒に一本背負を仕掛けるも、清水に巧みに返され効果の宣告。場内どよめきの声。そのまま袈裟固に固められると、ギブアップのサイン。清水、大金星。薪谷は以後の試合を欠場、胸の負傷が案じられる。

三井住友海上 ②-2 コマツ
先鋒戦は、岩藤対宝が試合後半から激しい攻防を見せるも引分。次鋒戦、吉成はアテネメダリストの横澤から、開始12秒捨身の小内刈で効果を奪い、そのまま逃げ切る。中堅戦は、上野(順)と谷本(育)のゴールドメダリストの妹対決となった。試合中盤と終盤に上野が低い姿勢からの体落で効果を

2つ奪い、タイに持ち込む。副将戦。渡辺がポイントを取れば上野(雅)が逆転する見応えのある攻防となった。結局、地力に勝る上野が残り24秒小外刈で技ありを奪い、合せ技一本勝。大将の岡は逆転を狙い清水を攻め立て、指導1と小内刈で有効を奪うもそこまで。内容差で三井住友がライバルを制した。

ミキハウス 0-2 コマツ
先鋒戦。今大会好調の吉成が残り20秒、藤原の背負投を崩し縦四方固で押え込み一本。次鋒の鍛冶と宝は激しい動きを見せるも引分。中堅戦は、谷本(育)が開始39秒右大内刈で中澤から技ありを奪い、続く1分10秒には左袖釣込腰で再び技あり。合せて一本でコマツが2点リード。副将の前田と渡邊は、両者決め手を欠き引分となる。この時点でコマツの準優勝確定。女子第一部の最終試合となった大将戦。木屋と岡の対戦は岡の背負投、出足払いに、木屋も出足払いで応戦したが、両者決め技なく引分。



上野(雅)、小外刈 合わせて一本

優勝監督コメント

三井住友海上 柳澤 久

■ 試合前から次鋒横澤と副将上野(雅)で行く事を決めていた。二人には課題を与えて戦わせた。猛練習で疲れきっていたが期待に答えてくれた。これで気持ちよくカイロ



女子第一部優勝の三井住友海上火災チーム

【主な対戦結果】

ミキハウス 0-3	三井住友海上
北田佳世 2段	岩藤理恵 2段
藤原知代 3段	袖釣込腰 横澤由貴 2段○
中澤ちさ 2段	袈裟固 上野順恵 初段○
前田桂子 3段	上野雅恵 4段
薪谷 翠 3段	袈裟固 清水千晶 2段○
ミキハウス 0-2	コマツ
藤原知代 3段	縦四方固 吉成麗子 3段○
鍛冶宏美 3段	宝 寿栄 2段
中澤ちさ 2段	合わせ技 谷本育実 2段○
前田桂子 3段	渡邊美奈 初段
木屋好絵 3段	岡 明日香 2段
三井住友海上 ②-2	コマツ
岩藤理恵 2段	宝 寿栄 2段
横澤由貴 2段	優勢勝ち 吉成麗子 3段○
○上野順恵 初段	優勢勝ち 谷本育実 2段
○上野雅恵 4段	合わせ技 渡邊美奈 初段
清水千晶 2段	優勢勝ち 岡 明日香 2段○

女子第一部成績表 (リーグ戦)

	ダイコロ	ミキハウス	三井住友海上	セコム	コマツ	勝 負 0勝0敗0分	順位
ダイコロ	△	△	△	△	0勝4敗	5	
ミキハウス	○	△	○	△	2勝2敗	3	
三井住友海上	○	○	○	○	4勝0敗	1	
セコム	○	△	△	×	1勝2敗1分	4	
コマツ	○	○	△	×	2勝1敗1分	2	

に行ける。新人の清水、山岸の活躍も今大会の大きな収穫となった。

第55回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

5月28日(土)18時30分より姫路キャッスルホテルにおいて、第55回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に開催された。

当日は、(財)全日本柔道連盟の嘉納会長や兵庫県吉本知之教育長はじめ、多数の来賓の方々や、連盟役員、並びに地元関係者など総勢180余名の参加があり、大会の成功を期するに相応しい盛り上がりを見せた。

阿南副会長の挨拶に始まり、吉本教育長、石見市長の歓迎のご挨拶の後、姫路商工会議所三宅副会頭の乾杯の音頭で祝宴に入った。

また、所用で遅れて到着した山口会長より、「今日の日本柔道を支えているのは実業界であり、柔道を愛する諸先輩方並びに関係各社のご理解、ご支援の賜物であると深く感謝している。今後も良き伝統を引き継ぎ、更なる発展に精一杯尽力したい。変わらぬご指導・ご支援を宜しく願いたい。」と挨拶をされた。

和やかな雰囲気の後には兵庫県柔道連盟藤田会長の発声による閉会の辞でお開きとなった。



石見 姫路市長のあいさつ



山口会長のあいさつ

「定時総会」開催される

第44回定時総会及び平成17年度理事会は、平成17年5月27日(金)午後4時30分から兵庫県立武道館・研修室にて開催され、第1号議案から第6号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成16年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成16年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成17年度事業計画承認の件
- 第4号議案 平成17年度収入支出予算案承認の件
- 第5号議案 規約改正の件
- 第6号議案 平成17年・18年度役員改選の件

2005年 世界柔道選手権大会代表選手(当連盟所属)

〔男 子〕

66kg級



内 柴 正 人
(旭化成)

73kg級



高 松 正 裕
(旭化成)

81kg級



小 野 卓 志
(了徳寺学園)

90kg級



泉 浩
(旭化成)

100kg級



鈴 木 桂 治
(平成管財)

100kg超級又は無差別



高 井 洋 平
(旭化成)

〔女 子〕

48kg級



谷 亮 子
(トヨタ自動車)

52kg級



横 澤 由 貴
(三井住友海上)

63kg級



谷 本 歩 実
(コマツ)

70kg級



上 野 雅 恵
(三井住友海上)

78kg超級



塚 田 真 希
(総合警備保障)

無差別



薪 谷 翠
(ミキハウス)

発行日 2005年7月1日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 事務局長 郷田博史
 印刷 ジャーナリスト 宮澤正幸
 ダイコク株式会社